R6研究中　住民参加型DX有害鳥獣対策～有害鳥獣モニタリングと獣道マッピング～

大学　西堀　正英

広島大学
大学院統合生命科学研究科
応用動物遺伝学　教授

市担当課　×

産業部
農林水産課

関係機関　×

JAひろしま

1 課題

イノシシ、シカなどの野生動物による農作物の被害が問題となっており、被害は農作物のみならず、農業用施設に及んでおり、農家の生活環境に大きな影響を与えている。

2 概要

農家の方の経験の上に取り組まれていたことに加え、デジタル技術を活用し、集落のデータ蓄積と検知の視覚化を地元住民、地域と協力して実施、有害鳥獣の生態をデジタルでマッピングすることで動物の行動や獣道等を視覚化し、集落の防御や動物の生態を考慮した効率的な対策を目指す。

▲研究イメージ

東広島市U地区で「アライグマ」出没
（メッシュワイヤーの下に穴を掘る）

東広島市F地区
「ニホンジカ」メッシュワイヤーを飛び越える

▲有害鳥獣の例

3 到達目標・方法

（1）自動撮影カメラによる有害鳥獣のモニタリングと有害鳥獣マッピング（1年目2モデル地域）

（2）地域住民とともに実施する有害鳥獣目撃アナログモニタリングとそのデータ集積デジタルマッピング

（3）環境DNAによる地域集落に生息する野生動物種の網羅的解析とその生息数推定

（4）全ての観測データを統合した有害鳥獣デジタルマッピングの構築

⇒各地域の実情に合わせた有害鳥獣への対策を実現する。